

小学生がまちの美化に取り組みます

21日、区立杉並第八小学校（高円寺南2-40-24）の6年生や保護者など30名ほどが区役所を訪ね、田中区长にまちの美化に対する協力を要請しました。その要請は、東京を代表する夏の風物詩として定着した高円寺阿波おどりの会場となる高円寺に住む小学生たちならではのもので、田中区长も協力を快諾しました。

昭和32年に始まった「高円寺阿波おどり」は、年々踊り手も観客も増え、今では東京の一大イベントとなっています。今年は、8月29日・30日の2日間の開催で、1万人の踊り手と100万人の観客を見込んでいます。

杉並第八小学校は、その高円寺阿波おどりのメイン舞台となる高南通りの近くにあり、児童たちの多くは、この阿波おどりのお囃子を子守唄に育ってきました。そういった土地柄なので、当然、多くの子どもたちが家族2代・3代に渡って、地元の阿波おどりの連のメンバーとして活躍しています。それほど、阿波おどりは身近な存在で愛すべきものとなっています。

その阿波おどりを見ようと、2日間で100万人がまちに訪れます。沿道からの拍手や声援は、踊り手にとっても大きな力になっています。しかし、困ったこともあります。その一つが、ごみの問題です。100万人もが熱狂するまつりですから、飲食店や道路に人があふれ、いつもより多いごみが発生します。まつりの後、ごみ集積場には、たくさんのごみが山積みされ、その一部がまちに散乱、カラスが群がります。



そこで、杉並第八小学校の6年生21人が、まちの美化に立ち上がりました。子どもたちは、会場周辺の飲食店に対してごみの管理をしっかりと行ってもらうよう、チラシやポスターで案内することとしました。また、たくさんのごみが集積場に置かれることがないように、区长に事業系のごみの回収をまつりの翌日に行うよう要請しました。この要請を受けて区は、特に飲食店が集中する高円寺駅南西部200m×150mのエリアの事業系の可燃ごみをまつりの翌日、特別に回収することにしました。
